

コンテンツ マネージメント システム

CMSで レクレク更新 ウェブサイト

ウェブサイト
イントラネット
ホームページ



text: 増田"maskin"真樹 illust: 小松恵

第2回

ゼロ円で作るCMSサイト Xoopsで営業部イントラを作る(1)

ウェブサイト
イントラネット
ホームページ



「余ったPC」超活用プロジェクト!!

「コンテンツマネジメントシステム = CMS」は、ウェブコンテンツの制作 / 運用フローを大きく変えるものとして注目されている。実際、どれほど革新的なものなのか、今回からはインストールから始めて、実際の運用まで丁寧にレクチャーしていくつもりだ。今回紹介する「Xoops」は、ウェブサイトを手軽に更新できるようにするだけではなく、掲示板や投票などの機能を簡単に追加できるようにするシステムだ。日本語の情報も沢山あり、初心者にとって一番使いやすいCMSといってもいいだろう。さあ、CMSの世界に飛び込もうじゃないか!

キミの部署 まだイントラサイトないの?

部署内の情報共有にまだ紙の回覧、メールの同報送信を使っていたり、会議での連絡がすべてという会社も多いのではないだろうか。当然のように伝達漏れがあったり、記録が残ってなかったり、後から情報を探せなかったりと効率が悪くなっていないだろうか。

今回から数回にわたって、そんな問題をクリアする「Xoops(ズープス)による部署イントラ」を解説する。部署レベルのイン

トラネットサイトがあれば、部署内の伝達事項を集中管理できる。報告や相談も掲示板を使えるし、メールに毎回Excelのファイルを添付してみんなに送る必要もなくなる。

対象としては技術に詳しくない営業マンを想定するので、「イントラネット作りたけれど難しそう」という人も心配はない。

用意するものは、部署で余っているパソコン1台だけだ。必要なものはウェブからダウンロードできる。ここではウィンドウズ2000を元に解説するので、できればOSはウィンドウズ2000のPCがいい(ウィンドウズ95/98/Meなどもできる限りフォローしていきたいと思う)。メモリーは128Mバイト、ハードディスクの空き容量は最低限300Mバイトほどあればいい。

手順としては以下ようになる。

1. ウェブサーバーのインストール
2. データベースのインストール
3. PHPのインストール
4. Xoopsのインストール
5. Xoops起動!!

ではさっそくインストールを始めよう。

図1 Xoopsによるイントラネットサイト



ウェブサーバー「Apache」のインストール

ウェブサーバーという巨大なシステムを想像する人が多いと思うが、実際にはPCでも動く単なるアプリケーションである。ウィンドウなどは表示されないが、システムに常駐して動作してくれる。

世界でもっとも多く使われている有名なウェブサーバーといえば「Apache(アパッチ)」[URL01](#)である。原稿執筆時点での最新版はバージョン 2.0.44だが、ここではXoopsを使う関係上バージョン1.3.27を使う。バージョン番号は古いが今でも現役なので安心してほしい。

アパッチを入手するには、アパッチ日本ユーザーグループのサイト[URL02](#)を使うのがいいだろう。このサイトにはさまざまなニュースやマニュアル文書が用意されているので、実際に運用するうえでさまざまな助けとなるだろう。リンクをたどってWin32用のバイナリー版「Current Release 1.3.27」をダウンロードする[URL03](#)。

ダウンロードしたファイルをダブルクリックするとウィザード形式でインストールが始まり、質問に答えていけば完了する。ただし、「License Agreement(使用許諾)」の画面では使用許諾を必ず読んで「I accept...」を選択して次に進む。「Server Information」の画面では何らかの情報を

入力しなければならない。とはいえ、あとから設定ファイルを修正できるので、図2のように上段2つ(ドメイン名とサーバー名)を入力し、最後の段だけ自分のメールアドレスを入力しておく。ネットワーク担当者がいる場合には設定する値を相談しておくとい。

これだけ済めば、あとはクリックしていくだけでアパッチのインストールは完了だ。ウェブブラウザを立ち上げて、アドレスバーに自分のパソコンのIPアドレスを入力すれば、アパッチの初期設定画面が表示されるはずだ。

パソコンのIPアドレスを知るには

スタートメニューの「ファイル名を指定して実行」に「cmd(ウィンドウズ9xならば「command」)と入力してコマンドプロンプトを開き、「ipconfig」と入力すればIPアドレスが表示される。

初挑戦! データベース「MySQL」のインストール

Xoopsは、さまざまな情報をより高速に効率よく管理するためにデータベースサーバーを利用する。稼働形態はウェブサーバーと同様で、アプリケーションとしてイ

ンストールすれば、システムに常駐して動作するようになる。Xoopsと連携して動作するデータベースサーバーは「MySQL」というフリーのものだ。

MySQLのダウンロードには、日本MySQLユーザ会のウェブサイト[URL04](#)を使うのがいい。「MySQLについて」「ダウンロードはこちら」とたどってミラーサイトから最新版であるMySQL 3.23のウィンドウズ版[URL05](#)をダウンロードする。

ダウンロードしたファイルを解凍したら、あとはアパッチと同様にウィザードでインストールできる。

インストールが終わったら、コントロールパネルから「システム」を開き、「詳細」「環境変数」を選ぶ。下の「システム環境変数」で「Path」を選んで「編集」ボタンをクリックし、「変数値」の最後に「;c:\mysql\bin」を追加する(図3)。

次にスタートメニューから「ファイル名を指定して実行」を選び、winmysqladminと入力する。図4のウィンドウが表示されるので、ここでMySQLに登録する「ユーザー名」と「パスワード」を設定する。

デスクトップ右下に青信号のアイコンが表示されれば、問題なく稼働しているということになる。コントロールパネルの「管理ツール」から「サービス」を起動すると、MySQLが動作しているのがわかる。

最後にMySQLの管理者アカウントrootのパスワードを設定する。スタートメニュー

図2 アパッチは簡単にインストールできる

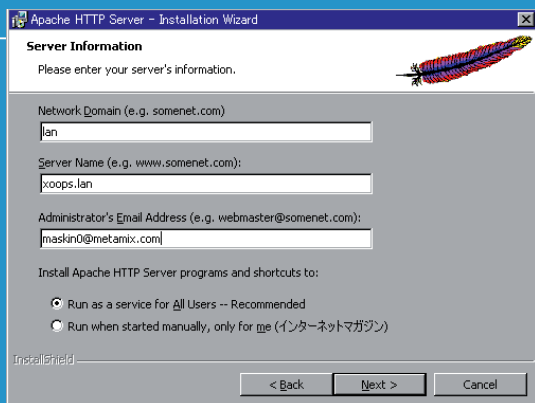
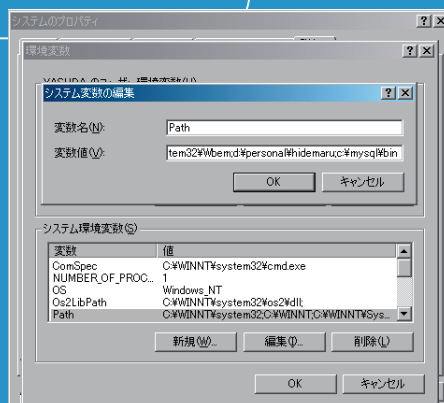


図3 MySQL用環境変数の設定



一の[ファイル名を指定して実行]に「cmd」(ウィンドウズ9xでは「command」と入力してコマンドプロンプトを開き、次のように入力する(「***」には設定したい管理者用パスワードを入れる)。現在のパスワードを聞かれるが今は空なのでそのままEnterキーを押す。2つ目のコマンドは設定したパスワードのテストだ。

```
mysqladmin -p -u root password ***  
Enter password:
```

```
mysqladmin -p -u root reload  
Enter password: ***
```

プログラミング言語PHPをインストール

次は、Xoopsのコアともいえるスクリプト言語「PHP」のインストールだ。日本PHPユーザー会 [URL06](#) から「ダウンロード」の「PHP(本家)」を選び、ウィンドウズ版のZIPバイナリーをダウンロードする [URL07](#) (インストーラー版もあるが、必ずZIPバイナリーを使う)。c:\phpというディレクトリーを作り、ZIPファイルを解凍してできるphp-4.3.0-Win32ディレクトリーの内容を今作ったディレクトリーにコピーする。

Xoopsをインストールする環境を整えるには、もう少し作業が必要だ。

まず、c:\phpディレクトリーを開き、そこ

にあるphp4ts.dllというファイルをc:\winnt\system32にコピーする(ウィンドウズ9xの場合はc:\windows\system)。

次に、インターネットマガジンのウェブサイト [URL08](#) の、本連載のサポートページから「Xoops用設定ファイル」をダウンロードして、解凍する。php.inとhttpd.confという2つのファイルを、それぞれ以下の場所にコピーする(すでにファイルがある場合にも上書きしてしまう)。

- ・ php.iniファイル
c:\winnt
(ウィンドウズ9xではc:\windows)
- ・ httpd.confファイル
C:\Program Files\Apache
Group\Apache\conf

これで作業は完了だ。スタートメニューの[Apache HTTP Server] [Control Apache Server]からRestartを選んでアパッチを再起動すれば、あとはXoopsをインストールするだけだ。

.iniや.dllのファイルが見つからない

拡張子が表示されなかったりファイル自体が見えなかったりする場合は、ウィンドウのメニューから「ツール」「フォルダオプション」を開き、「表示」タブで「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択し、「登録されているファイルの拡張子は表示しない」のチェックをはずす。

ついに到達! Xoopsをインストール!!

これまでのインストール作業とは大きく異なり、Xoopsのインストールはとても簡単である。というのも、Xoopsのインストーラーはウェブブラウザから起動するものなので、ファイルの設定などの面倒な作業がまったく生じないのだ。

ファイルのダウンロードは「XOOPS公式サイト」 [URL09](#) の左メニューから「ダウンロード」を選択して行う。バージョン1.3のコアパッケージをZIP形式 [URL10](#) でダウンロードする(バージョン2はまだ開発中なのでここでは1.3を使う)。

ファイルを解凍して出てくるhtmlディレクトリーの中身を以下のディレクトリーに「xoops」というフォルダを作ってコピーする。このディレクトリーは、ウェブサーバー「アパッチ」の、公開用ファイルを置く場所だ。

```
C:\Program Files\Apache  
Group\Apache\htdocs
```

それではブラウザを立ち上げ、アドレスに「http://サーバーのIPアドレス/xoops/install.php」と入力してみよう。これが実は、xoopsのインストールプログラムなのである。図5の画面が表示されればPHPで動くインストールプログラムが機能している証拠だ。「Japanese」を選択して先に

図4 mySQLのクイックセットアップ



図5 Xoopsのインストール開始画面



進もう。

詳細な設定画面が現れる(図6)。ここでは、データベース(MySQL)接続のために、図4でMySQLに登録したIDとパスワードを設定する。「データベース名」は適当な名前が構わない。「XOOPSへのURL」だが、「サーバーのIPアドレス/xoops」と間違いないように入力しよう。(図6)

無事にデータベースとの接続が実現すれば、Xoops用のユーザー名とメールアドレス、パスワードを設定する画面が表示される。ここで「データベーステーブルを作成する」ボタンを押して無事に処理が進めばすべての作業が終了する。

**CMSシステム Xoops 起動
まずは日本語化だ!**

ついにインストール完了! さっそくXoopsを起動してみよう。やれることはたくさんある、まず初めに管理者モードにログインして各種設定をチェックしてみよう。

ブラウザでXoopsのパス(http://サーバーのIPアドレス/xoops/)を開けば、Xoopsの基本画面が表示される(図7)。現在のところ、英語表示で何も登録され

ていないわけだが、立派なポータルサイトっぽくいろいろできそうな感じだ。

インストール時に登録した、Xoops管理者用のIDとパスワードを入力してログインをしてみよう。ログイン処理が行われ、初めの画面に戻っているはずだ。今度は管理者としてログインしているので、左上のメニューが少し変わっている(図7右上)。

「Administration Menu」をクリックして管理者メニューに移動し、左上の「SystemAdmin」ボタンをクリックして、メニューから「Preferences」をクリックしよう。表示されるメニューの「Default Languages」を「Japanese」に切り替えて「Go」ボタンを押せば、すべてが日本語に切り替わる(図8)。

英語が得意じゃない人は、一安心だ...

...といいたいところだが、Xoopsの機能は非常に多い。一見したところで、内容を把握できるというものではないのだ。

ここで「System Admin」から「モジュール管理」を選択してみよう。ずらっとパナ-みたいなリストが並びはずだ(図9)。

これらすべてがXoopsで管理できる「情報コンテナ」の一覧であり、これらをインストールしたり設定したりしてXoopsの画面を作っていく仕組みだ。前回説明したが、Xoopsとは、「eXtensible Object Oriented Portal System」の略で、直訳すると「拡張可能なオブジェクト指向ポータルシステム」となる。そのゆえんとなるのがこの「モジュール管理」だ。赤い文字でアクティブとなっている上の3つはすでにインストールされ稼働しているものだ。

**Xoops がセットアップされた
ホスティングサービス**

もしどうしてもXoopsがうまくインストールできない場合には、Xoopsを無料でセットアップしてくれるホスティングのmyWebJapanを検討するといい。

最も安い「UNIXミニ」プランだと、月額1,500円で、ハードディスク容量50Mバイト、月間転送量 1.5Gバイト、POP3メール / 転送メール無制限、サブドメイン無制限、MySQL データベース1個、PHP 4.2.2、カスタムCGIというサーバーをレンタルできる。

myWebJapan URL <http://www.myweb.ne.jp/>

図7 立ち上がったXoopsサイトに管理者でログインしよう

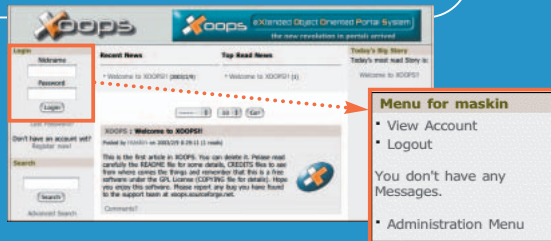
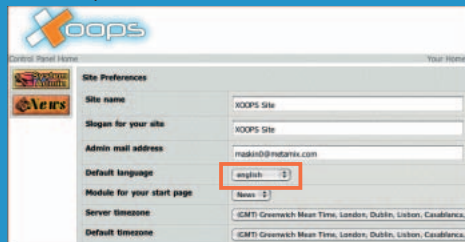


図6 日本語で表示されたXoopsのインストール画面



図8 Xoops全体の一般設定画面



すぐに使える Xoops
伝達事項を
ニュースの投稿で

すでにアクティブになっているモジュールの1つ「News」をクリックして、ニュースを投稿してみよう。フォームが登場するので、説明に従って入力してだけでいい(図10)。これは管理者だけが登録できるニュースで、ニュースのタイトルと本文を入力して、一番下の「プレビュー」を「保存」に変えてから「送信」ボタンを押すと、書いた内容がトップページに自動的に表示される(図11)。ほかのユーザーはこの記事に対しコメントを書き込むことができる。トップページで記事の下にある「コメントする」ボタンを押して「投稿する」をクリックすれば、ニュースに対するコメントを追記することもできるのだ(図12)。

まだ何もインストールしていない Xoops だが、それでもニュース配信と投稿機能は稼働した！ この機能を使えば、部署内の伝達や簡単な情報共有ができる。

今回は、Xoopsのすばらしい機能にぐんと踏み込んで紹介していく。仲間全員が使いこなせるCMSサイトを目指してがんばろう！

筆者プロフィール

増田"maskin"真樹

フリージャーナリスト_情報デザイナー。1999年米国シリコンバレーにてベンチャー企業の立ち上げに参加。帰国後もネットエイジ(<http://www.netage.co.jp/>)や開心空間などで新規事業の立ち上げに従事する。現在、開心空間ポータル(<http://www.kanshin.jp/>)のウェブマスターおよび「オンライン・コミュニティ・デザイン・ニュース」(<http://www.kanshin.jp/portal/ocdn/>)の編集長を兼任。

ホームページは <http://www.metamix.com/>

URL01 <http://www.apache.org/>

URL02 <http://www.apache.jp/>

URL03 http://www.apache.jp/dist/httpd/binaries/win32/apache_1.3.27-win32-x86-no_src.exe

URL04 <http://www.mysql.gr.jp/>

URL05 <http://www.softagency.co.jp/MySQL/Downloads/MySQL-3.23/mysql-3.23.55-win.zip>

URL06 <http://www.php.gr.jp/>

URL07 <http://jp.php.net/distributions/php-4.3.0-Win32.zip>

URL08 <http://internet.impress.co.jp/>

URL09 <http://jp.xoops.org/>

URL10 http://telia.dl.sourceforge.net/sourceforge/xoops/xoops_v1_3_8.zip

各ソフトウェアは常に更新されているので、必要に応じて新しいバージョンを使ってほしい。本書の解説では、上記のファイルのバージョンを使っている。

図9 Xoopsのモジュール管理画面



図10 管理者用のニュース投稿機能



図11 投稿したニュースはトップページに表示される



図12 ニュースにコメントを付けることもできる



ホスティングサービス、
多言語・多RDBMS対応、数々の新機能.....

進化を続ける Movable Type

聞き手：先田千映



開発当初から、Blogだけじゃない、軽いCMSツールを作りたいと思ってました。 Mena

前号でも紹介したMovable Type [URL01](http://www.movabletype.org/) の作者、トロット夫妻が来日。日本のユーザーとの交流を深めた。日本の携帯電話の話となると「未来にいたい!!」と子どものように目を輝かせる2人だが、世界中に1万5千を超えるユーザー(ダウンロード数やユーザー登録数からの推計)を擁するソフトウェアとなった今でも、ベンがエンジニア、ミーナがデザイナー兼マネージャーと、ほぼ2人でプロジェクトを切り盛りしているという。

Q: Movable Type(以下MT)開発のきっかけは?

ベン: 以前ミーナはほかのウェブログツールを使っていたんですが、安定性や機能の面で不満があるというので、彼女が求めるコメント機能やカテゴリ機能を実現したものを作ってみました。そのサイトを見た人たちから「このシステムを自分も使いたい」というレスポンスをたくさんいただいたのがきっかけで、2001年の10月に最初のバージョンを公開しました。それ以来、多くのユーザーの要望を取り入れていろんな機能を追加してきました。

ミーナ: 開発当初から、用途をウェブログに限らず、負荷の軽いコンテンツマネジメントツールを作りたいと思ってたんです。

Q: 日本のユーザーがこれほど増えるとは予想してました?

ミーナ: 全然(笑)。あらためてインターネットの力を感じます。私たちの小さなアパートメントの部屋で作られたものが世界を旅して、言葉の障壁まで超えるなんて。

ベン: MT本体での多言語対応にも取り組んでいますが、これがなかなか難しく。ゆくゆくは、異なる言語の複数のウェブログを簡単に管理したりということもできるようにするつもりです。

ミーナ: 今回日本のユーザーに会って意見

を聞いたり助力を得たりできたのはとてもよかったよね。だってアルファベットの使わない文字コードとなると、私たちだけではもうお手上げですから。

Q: これからの開発の予定は?

ベン: 当面はパーソナルなコンテンツ管理システムという方向性で続けます。新しく準備しているのはSix Acrossという手軽なホスティングサービスで、MTをベースにウェブログやフォトアルバムなどのコンテンツを簡単に管理できるようになる予定です。

ミーナ: 今、MTのユーザーにとって最大にして唯一のハードルになっているのが、最初のインストールとセットアップなんですよね。このサービスでは初心者でも気軽に始めてもらえるし、HTMLを知らなくてもサイトの見た目や使い勝手をカスタマイズできるようにします。

ベン: ほかに「最近見た映画10本」「聴いている音楽」など、これまでのユーザーが別のウェブログを立ち上げて管理していたようなコンテンツを簡単に一覧にできるリスト機能を予定しています。

ミーナ: あとは、非登録者からのアクセスを制限する登録機能。これもユーザーからの要望が多かったんです。これらの機能は、ユーザーの反応を見ながらソフトウェ

ア版のMTにも取り入れていきますね。

Q: MTのユニークな使用例を紹介していただけませんか。

ミーナ: オンラインマガジンの発行システムとして使われているケースは多いですね。MTを使ったフォトギャラリーで自分の撮った写真を販売している方もいるんですよ。あとは、私たちも直接協力したのですが、サンフランシスコのある高校では、サイト全体がMTで管理されていて、ほぼすべての機能を極限まで使い尽くしています(笑)。

ベン: 注目サイト紹介のコーナー [URL02](http://www.movabletype.org/) でもいくつか紹介しているので見てみてください。ウェブログ以外にもさまざまな使い方をしている人たちがいますよ。

2月13日にリリースされたMovable Typeバージョン2.6では、外部データベースとして新たにPostgreSQLとSQLiteに対応。また、クリエイティブコモンズのライセンス対応など、数々の新機能が追加されている。2人を中心に進化し続けるMTに今後とも注目したい。

[URL01](http://www.movabletype.org/) <http://www.movabletype.org/>

[URL02](http://www.movabletype.org/spotlight-full.shtml) <http://www.movabletype.org/spotlight-full.shtml>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp